

将来  
計画

SAIKO  
中長期ビジョン  
2021-2027



学校法人智香寺学園

埼玉工業大学 正智深谷高等学校

## ■ 中長期計画の策定にあたって



理事長

松川 聖業

明治36(1903)年の東京商工学校創立以来、経営体制や教育内容などの大きな変遷を経ながらも教育機関としての使命を全うすべく、教育研究活動を行って参りました。関東大震災や第2次世界大戦などの激動困難な時代を乗り越え、現在の安定した経営に至っていますが、おそらく今ほど変化のスピードが速い時代は過去にはなかったでしょう。

ICT技術の進化、価値観の多様化、社会の仕組みの変化などにより、学校そのもののあり方も含め、学ぶということについての多様性が進んでいます。様々な外部環境の変化が激しい今、従前と同じことを続けていたのでは、組織の進化発展は望めません。もちろん守るべき伝統もあるでしょう。逆に、時代に合わせて変えていかなければならないこともあります。

本学園は仏教の教えを建学の精神に掲げております。仏教の目的である智慧と慈悲の実践される社会の構築を目指し、本学園はこれから何をすべきなのか、その具体的な方向を示すために新しい中長期計画を策定いたしました。埼玉工業大学では、5年前に、「中長期ビジョン2016-2020」を策定しています。その中で、まだ実現できていないこと、そして新たな課題として出てきたものなどを加味し、学園全体として新しい中長期計画を掲げました。

- 学生生徒に主体性をもって学んでもらうために、何をすべきか
- 誰もが学びやすく、働きやすい学園とするために何をすべきか
- 多様性を尊重し、様々な学園構成メンバーに活躍してもらうために、何をすべきか
- 大学間連携や産学官連携など、外部機関との連携を強化し、学園の発展と地域貢献に資する為に何をすべきか
- 入学者数の確保と同時に、学生生徒納付金以外の収入を増やし、安定した財務基盤を構築するために何をすべきか

これらの課題を解決するために、なすべきことは山積しておりますが、不断の決意で学園一体となって邁進していきます。そして、地域社会から愛され、必要とされる学園として、世の中に貢献していくことを誓います。

## ■ 大学部門 はじめに(中長期ビジョン策定の背景)



学 長

内山 俊一

グローバル化や少子高齢化が著しく進展し、将来の予測が困難になっている現代において、昨年より世界中で広がっているコロナウイルス感染の拡大防止という観点からも大学は、地域社会、国際社会、産業界等社会のあらゆる分野における急激な変化に向き合って運営していかねばなりません。このような時代背景にあっても、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り開き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが求められています。

各大学は、社会で求められる人材が高度化・多様化する中、教養・知識等に加え、課題発見・探求のための批判的思考力や判断力、チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う倫理的・社会的能力などを育成するため、学生の主体的な学びを重視した教育へ質的転換を図りつつあります。

こうした状況の中で、埼玉工業大学は、法人と教学が一体となり、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させることを目指しております。

そのためには入学定員が十分に確保でき、退学率の低い、また就職率の高い大学であり続けるためになすべき課題は何なのか、またどのように実行していくのかを真剣に考えなくてはなりません。そこで将来計画に関わる中長期ビジョン検討会を設置し、その実現に向けてどう取り組んでいくのか、来る2027年を見据えたビジョンを策定しました。

## ■ 建学の精神と教育の理念

### 建学の精神 Spirit of founding

学校法人智香寺学園埼玉工業大学は、仏教精神を基盤として、広く学術教育を行うことを建学の理念としています。単なる実学教育にとどまらず、学生一人一人の「こころ」の涵養に力を注ぎ、文化と科学の調和をモットーとする大学です。右図のように使命感、人生観、連帯感という3つの柱からなる「建学の精神」を謳っております。



### 教育の理念 Philosophy of education

埼玉工業大学では、「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」という理念、仏教精神を基盤とする建学の精神をモットーに、エンジニアや実務家など、社会の中核となつて社会に貢献できる人材を養成しています。

これからの科学技術の発展にも、学生の皆さんが社会のために役立てる社会人として成長するためにも、学力や技術を修得することは大切ですが、技術をどう生かすかといった正しい道徳観・倫理観・宗教観を持つこと、感性、精神力やコミュニケーション能力を磨くことが必要不可欠です。

本学では、人間社会学部と工学部の2学部5学科および大学院の人間社会研究科と工学研究科の2専攻において、きめの細かい丁寧な教育と研究の指導を心がけています。「目」が行き届くと同時に、学生の立場に立った「こころ」を込めた指導と皆さんの期待に応えられる学習環境を用意しております。

進路や関心に合わせた専門分野の充実に加えて、英語教育と情報処理教育にも力を入れ、コミュニケーション能力と情報化社会に対応できる力を養成します。さらには学生の皆さん自身が持つ素晴らしい能力を引き出すとともに、社会で活躍するために必要な「人間力」を身に付けられる教育を行います。

大学および大学院時代は社会に出るまでの準備期間です。そして、大学および大学院は仲間と共に自分自身の基礎を築く場所でもあります。興味と目標を持って学び、専門知識や技術を身に付けるとともに、柔軟な見方や考え方を広く学んで「人間力」を磨いてください。

皆さんが輝かしい未来への扉を開き、夢と希望の実現を目指して、私たちと一緒に、皆さんの持つ素晴らしい能力を見つけ出しながら、共に歩いていきましょう。

## ■ 行動指針と今後の目標

### 学生および教職員が共有する行動指針

埼玉工業大学の学生および教職員は、建学の精神、教育理念の実践に繋がる行動指針として、「埼工大宣言」を共有しています。

### 埼工大宣言

#### **S** be Social 広く「社会」に目を向けよう

私たちは、地域を拠点に、学内外のあらゆる領域での活動を通じて、多くの人と出会い、互いに刺激を与えることによって社会の活性化を目指します。

#### **A** be Aggressive 何事にも「積極的」な姿勢で臨もう

私たちは、どんなことであっても失敗を恐れず、前向きに取り組み、隠れた能力を呼び覚ますチャンスと捉え、一生懸命に挑戦します。

#### **I** be Imaginative 豊かな「独創力」を培おう

私たちは、先人の智慧に学ぶとともに、未来に思いを馳せ、ワクワクするような自由な発想で、創造する喜びを共有します。

#### **K** be Kind 常に「思いやり」の心を持とう

私たちは、相手の立場を考えながら自分のできることを最大限実行し、互いに力を合わせることで、共に成長します。

#### **O** be Original 自らの「個性」を磨こう

私たちは、常に自分を変える努力を惜まず、自分にしかできない何かを求めて、自分らしい最高の物語を作りあげます。

### 今後の目標

2010年以降、幸いなことに大学の入学定員を継続的に満たしてきているが、離籍率の減少や就職率の増加についても真摯に取り組んでいかねばならないと考えています。そこで、新しい中長期ビジョンを実現するため、その判断材料として、次の目標を定めます。

1. 入学定員の確保100%+ $\alpha$
2. 離籍率(1年間)3%以下
3. 就職率95%以上
4. 大学院進学率10%以上
5. 健全な財務の実現
6. 新時代を担う技術の開発と社会への還元

この目標を達成するための戦略として、入学戦略、教育改革戦略、学生支援戦略、キャリア・就職支援戦略、地域連携戦略、研究活性化戦略、管理運営体制強化戦略の7項目を掲げ、その具体的な取り組みを実施していきます。

## ■ 三つの方針

埼玉工業大学は、教育の理念である「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」のもと「人間力を身に付けられる教育」を展開することによって、「社会の中核となって社会に貢献できる人材の養成」を目指しています。

こうした人間の育成を実現するため、学部・大学院における次の3つの方針「入学者受入れの方針」「教育課程編成・実施の方針」「学位授与の方針」を定めます。

### 入学者受入れの方針 Admission policy (アドミッションポリシー)

埼玉工業大学は、その教育理念に基づいて、自分を高めつつ、社会に貢献することを目指す入学者を求めています。こうした入学者を受入れるため、学部入試では、一般選抜の他、推薦型選抜、総合型選抜、特別選抜等の多様な選抜方法、また大学院入試では、推薦入試、一般選抜入試、特別選抜によってその適性を確認します。

#### ①埼玉工業大学は、仲間と共に意欲的に学んでいける、次のような人を求めます。

- ・自己の能力や技術を高めつつ、社会に貢献したいと考えている人
- ・学びを通じて、課題探求能力の向上や専攻分野の専門的知識を身に付けたいと考えている人
- ・課外活動や自主的活動を積極的にを行い、自らの個性を育みたいと考えている人

#### ②埼玉工業大学は、次のような方針で入学者の選考を行います。

- ・大学で学んでいく上で必要な基礎学力を判定するために、AO入試、推薦入試、一般入試及び大学共通試験等を活用して選考を行います。
- ・他者と協働する上で必要となるコミュニケーション能力を判定するために、口頭試問あるいは論述試験等を実施します。
- ・大学における基礎学力を身に付ける上で必要となる、学習に対する明確な目的意識、将来の目標、並びに具体的な進路計画を持っている者を選抜するために面接試験等を行います。

以上の全学的な方針に基づき、学部においては「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体性・意欲・協働性」の3つの観点から各学科が求める人物像を具体的に示するとともに、「入学者選抜方法」についての方針を明らかにします。

大学院においては、各専攻の教育研究分野ごとに求める人物像を示します。さらに、博士後期課程と博士前期課程(修士課程)の相違点も明示します。

### 教育課程編成・実施の方針 Curriculum policy (カリキュラムポリシー)

埼玉工業大学は、学位授与の方針で示す能力を学生が身に付けることができるよう、次に掲げる方針のもと、体系的な教育課程を編成し、実施します。

- ①入学後の学習が主体的に行え、かつ学習動機が明確化できるよう、初年次教育を充実します。
- ②社会の中核となり得る教養豊かな人間を育成するため、教養科目、外国語科目、共通科目と専攻分野の知識や技能を身に付ける専門科目との融合を図ります。
- ③自律しつつ他者と協働して課題を解決する力を形成するために、対話型・参加型教育の展開に努めるとともに、課外活動でもこのような能力が形成されるよう、多様な機会を提供します。
- ④教育課程の点検・評価を継続的かつ組織的に行い、体系的な編成・実施に努めます。

以上の全学的な方針に基づき、学部においては＜教育方針＞＜教育内容・方針＞＜評価＞の3つの観点から各学科の教育課程の編成・実施の方針を示します。

大学院においては、各専攻の教育研究分野の設置目的と各分野が扱う教育・研究の内容を明らかにし、各分野の方針に基づきどのようなカリキュラムが編成されているかを示します。さらに、博士後期課程と博士前期課程(修士課程)の相違点も明示します。

### 学位授与の方針 Diploma policy(ディプロマポリシー)

埼玉工業大学は、学生が本学における学修と経験を通じて次の能力を身に付け、所定の単位を修得したときに学士の学位を授与します。

- ①文化、社会と自然に関する幅広い知識とともに、特定の専門分野に関する知識や技能を体系的に理解する力
- ②社会にある様々な課題を探求し解決していくのに必要な、論理的思考力、批判的判断力、創造的表現力
- ③高い倫理観及び責任感を持ち、多様な人とのコミュニケーションをもとに、協調・協働して行動する力

以上の全学的な方針に基づき、学部においては＜知識・理解＞＜汎用的技能＞＜態度・志向性＞＜総合的な学習経験と創造的思考力＞の4つの観点から各学科の学位授与の方針を示します。

大学院においては、各専攻が学位を授与する要件として求める専門的知識や能力、学位論文に求める条件などを具体的に示します。さらに、博士後期課程と博士前期課程(修士課程)の相違点も明示します。



本部棟



人間社会学部棟

## ■ 入学戦略

国内における大学を取り巻く状況が大きく変化し、18歳人口の減少が本格化する2019年及び2020年度入試において大幅な志願者増を実現するに至ったことは本学の将来に明るい展望を抱かせるものであります。しかし、2021年度入試においては、コロナ禍の影響により前年に比べ大きく志願者が減りました。そこでさらなる志願者増のためには、広報に値する大学内部の教育システムの充実、新しい先端分野への取り組みなどを積極的に実施し、これらの成果を広く社会に向けて発信していくことが極めて大切であると考えられます。

### 【目標を達成するための取組み】

- ①オープンキャンパスの内容を更に魅力あるものにするとともに、ホームページや広報誌において、入学者の受入れに関する情報を充実させます。
  - ・私学事業団が運営するWebサイト「大学ポートレート」や本学の出版会を積極的に活用して、本学の特色や教育研究上の取組み状況を、受験生、保護者や進路指導教員等に広く公表します。
  - ・地元大学への進学志向が強まる傾向もあるので、高校訪問、高校教員向説明会、進学相談会等による対面広報を強化します。特に埼玉県・群馬県地域からの志願者増加を目指します。
  - ・教育研究を活性化させて本学に対する興味関心を高め、附属高校からの志願者を増やします。
- ②入学者受入れの方針に応じて、一般入試、総合選抜入試及び推薦入試等における評価方法等の見直しを継続的かつ不断に実施します。
  - ・入学者受入れの方針は、社会や時代の要請に対応するため、継続的に検証し、必要に応じて見直します。
- ③2019年度を以って現行の大学入試センター試験が廃止され、2020年度から新テスト「大学入学共通テスト」が開始されました。共通試験結果の活用を含め、記述式問題の導入や学力特待生の算出基準など入試制度の抜本的な見直しを行います。
- ④入学予定者に対しては、高校から大学への環境変化にスムーズに適応し、自発的・能動的に学ぶ意識を育てるための入学前教育を実施します。
- ⑤グローバル人材育成を目指し、海外提携校を増やし、優秀な留学生の受け入れを積極的にすすめます。(現在200名以上の留学生が学んでいます)

## ■ 教育改革戦略

少子高齢化社会により大きな構造変化を迎える日本社会で活躍できる人材育成を行うことが大学に課せられた重要な使命です。これまで行ってきたアクティブラーニングに加え、ものごとの本質を見抜き、正確で客観的なデータに基づく判断能力を持った人材育成を行えるような教育改革を進めていきます。

### 【目標を達成するための取り組み】

- ①全学で実施しているAI教育と並び、主観や衝動的によるハイリスクな意思決定を避け、客観的、論理的な判断能力を習得できる教育体制の確立を行い、AIとの協働が可能な人材育成を目指します。
  - ・実験、実習科目を重視し、現象の定量化能力を養う教育を推進します。具体的には得られたデータを使った客観的な判断行動を想定し、データを可視化できる手法を学ぶなど、社会ニーズに沿った教育を実施します。
  - ・オンライン教育の利点を有効活用し、例えば通学困難時でも対面授業と同等の教育ができるルールの確立、社会ニーズの高いオンラインプレゼンテーション教育、討論など実践教育を実施します。
  - ・少人数ゼミ・卒業研究では同僚や教員との討論時間を積極的に設け、批判的思考の強化を目指します。特に十分な確証に基づかない意思決定を避けるための教育を強化します。
  - ・質問力を強化するため、通常講義でも質疑応答やグループワークの機会を増やした教育を実施します。
  - ・文理融合の観点を大切にす観点から、学科や学部を超えた連携研究活動の機会を提供し、他分野間での議論や質疑応答の教育を行います。
- ②学習成果の測定に関する体制を強化します。全学的な基本方針を定め、これに基づいた測定体制を確立し、入学から卒業までの成果の可視化に努めます。
  - ・学習効果測定に関する学内組織を1年以内に立ち上げ、3年以内の運用開始を目指します。
- ③AI教育の充実、大学院の充実及び内部進学者の増強を推進します。
  - ・全学で行っているAI教育をさらに拡充し、全学部・全学科又は横断的な体制でのAI研究を推進します。特に人間社会学部でのAI技術の活動にも注力し、多分野におけるAI人材の育成を目指します。
  - ・大学院における指導指針を明確にし、学内外における定期的な研究発表機会の提供と実施指導、またそれによる能力測定を行うとともに、外部からの入学者だけでなく、本学学部からの内部進学者の増加を目指します。内部進学者は早期に進学の意思表示をすることによって、より継続的な学部・大学院教育が可能になります。
- ④学生の英語力向上を目指し、異文化コミュニケーション(海外研修)を充実します。英語圏の海外提携校を増やすとともに積極的に留学の支援をすすめます。

## ■ 学生支援戦略

本学は、仏教精神を基盤に学生一人ひとりが意欲を持って学業や課外活動に取り組むことができる環境を整備し、学習支援、学生相談、ハラスメント相談、障害者支援、経済的支援等の支援を充実させ、相互の人格を尊重し合い切磋琢磨しながら学べる教育環境を確立します。

### 【目標を達成するための取組み】

#### ①学習支援を推進します。

- 学生の自主的な学習の場として充実した図書館づくりを目指します。さらに、課外活動、情報交換及び学習の場として利用できるスペース(ものづくり研究センター棟ホール・人間社会学部棟エントランスホール・学生食堂等)を整備し、快適な学習支援施設づくりを目指します。
- 基礎学力支援に対応した学習支援センターの活用を促進します。学習支援センターは1年次から卒業まで、勉強方法や学習の悩みをサポートしています。高校での学びに自信がない学生に向けては基礎科目(数学・物理学・化学・英語)の復習を支援します。授業内容をより深く理解したいという学生の指導も行います。

#### ②学生生活を支援します。

- 学生相談室は、学生生活全般、家庭生活、人間関係、勉強、サークル活動、自分自身、進路、将来のことなど学生の悩みや不安を聞き、相談員と一緒に考えていきます。学生ハラスメント相談室は、ハラスメント問題の解決を目指すとともに、すべての学生が個人として平等に尊重され、安心して学習できる健全なキャンパス環境を整備します。
- 経済的困窮者への対応については、奨学金の給付、授業料の減免の他、金融機関と提携し教育ローンの利用者に対し在学中の利子を補給する制度を設けています。また、ティーチング・アシスタント(TA)制度を設けており、TA学生は有給で実験・実習科目の補助業務に従事します。この制度は、受講学生の学習支援だけでなくTA学生の経済的支援も兼ねています。
- 意欲と能力のある学生が経済的理由により修学を断念することなく安心して学べるよう、返還義務のない給付型奨学金で学生を支援します。本学では、学業成績に関わりなく、自分の夢・目標に向かってどれだけ努力しているかを評価して給付する「松川記念奨学金」制度の創設を準備しています。
- 学生プロジェクトをはじめ学内外での課外活動の活性化を図るとともに、学生の主体的な社会貢献活動を支援します。「埼玉工業大学学生プロジェクト」は、学生がグループ単位で提案するプロジェクトであり、選考のうえ、その活動資金を大学が援助します。
- 障害を有する学生に対しては合理的配慮を提供します。聴覚障害のある学生に対しては、支援学生を養成の上、ノートテイクによる情報保障を行っています。また、車椅子を利用する学生等に対しては、バリアフリーあるいはユニバーサルデザインを踏まえた施設設備を確保するよう取り組んでいます。

③中途退学者を減らすための取組みを実施します。

- 大学を不本意に中途退学してしまうなど、社会・職業へ円滑に移行できないおそれのある学生に対しては、キャリア教育等を通じて、学ぶことの目的意識を持たせ、学習意欲の向上につなげていく支援が大切であると考えています。
- 大学での学びに適應できるかどうかは、1年次での取組みの影響が大きいため、本学は、教員を主担任、職員を副担任としたグループ担任制を導入し、授業を欠席傾向の強い学生の面談指導を行うなど、教職員が一体となって学生指導に取り組んでいます。
- 入学直後の新生を対象に行う1泊2日の「フレッシュマン・キャンプ」において、履修や就職に関するガイダンス、学生間の交流プログラムなどを実施しています。このような機会を通じて、周囲の学生や教職員と話すきっかけをつくることにより、友人づくりの機会を持ち、クラブへの加入率を高めるなど、大学生活をスムーズに始められるようにしています。



## ■ キャリア・就職支援戦略

本学は、学生の社会的・職業的自立を支援するため、教員組織のキャリア支援センターと、職員組織の就職課を設置しています。その両部門が密接に連携して、学生が希望進路を叶えられるよう、学生の就業力強化に取り組みます。また、各学科の教員によって構成される就職委員会との密な情報交換により、手厚い就職支援を学生に提供します。

### 【目標達成のための取組み】

- ①キャリア教育に関わる講義や施策・プログラム等を、より職業社会を前提とした実践的な内容に改善し、内容の拡充に努めます。
  - ・学生が卒業後、社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度を育みます。
  - ・学生が自らの視野を広げ、大学卒業後の進路を具体化することを支援します。
  - ・課題解決型(PBL型)海外研修ツアーを開催し、学生が多様な価値観に触れることで、将来、グローバル化が進んだ環境でも活躍できる力を養います。
  - ・オンラインでのリーダーシップ・チームワーク研修を実施し、より多くの学生が、働く現場でそれらの力を発揮できるよう支援します。
  - ・講義ではアクティブラーニングの手法を取り入れ、学生自身の主体的な学びを促します。
- ②学生自身の「就業力を高めるプログラム」の導入と同時に、「学内合同企業説明会・選考会」等、学生と企業・団体・官庁との接点を増やす機会の創出に取り組みます。
  - ・学生の実践的な就業力を養うため、1年次から卒業・修了年次まで続く「就職活動準備講座」を開講することで、社会で求められる知識、技術、習慣や社会人基礎力を培います。
  - ・一年間を通して、企業・団体・官庁の「新卒採用部門との情報交換」に努め、そこで得た情報をもとに職業社会の実態に即した学生指導を徹底します。
  - ・本学を会場として、またオンライン上で、「学生が企業を知り、採用試験を受験できる企業説明会・選考会」を誘致します。
  - ・学生一人一人の動向把握と就業力強化を目的として、教員・職員・キャリアカウンセラーが、「研究室を訪問して就職指導」を行います。
  - ・女子学生が、長期的な視点を持ってキャリアを築けるよう「女子学生のためのキャリア勉強会」を実施します。
- ③学生一人一人にきめ細やかに対応することを目的として、「キャリアカウンセリング」の充実化を図ります。
  - ・キャリアカウンセラーが常駐する就職相談窓口を設置し、学生が自分自身の特徴や志向に応じて相談を行い、自身の能力を開発できるよう支援します。
  - ・キャリア支援センター・就職課のすべての教職員が学生から信頼を得て、適切に指導・助言を行えるよう、キャリアカウンセリングやキャリアコンサルティングの能力を高め続けます。

## ■ 地域連携戦略

大学が企業や地方公共団体などと連携して、地域のニーズを踏まえた教育研究を行っていき地域の発展に貢献していくことが、大学の果たす社会的貢献の一つとして重要になってきています。

本学は「地元可愛さ、頼りにされる大学」をめざし、埼玉県及び深谷市を中心とした地域の行事に積極的に参加するとともに、公開講座、教員免許更新講習、リカレント教育（開放授業講座）等、本学が持っている知的資産を活用した地域貢献事業を進めています。

### 【目標を達成するための取組み】

- ①現在、地域生涯学習の拠点になることを目指し、次のような「学び場づくり」を実施しています。
  - 市民のための公開講座、及び心理セミナー
  - 埼玉県・深谷市との連携、地域交流
    - 「子ども大学ふかや」（埼玉県教育委員会）
    - 「ふかや市民大学」（深谷市生涯学習）
    - 彩の国いきがい大学（埼玉県）
    - 次世代産業カレッジ（埼玉県）
    - リカレント教育：開放授業講座（埼玉県）
  - 高大連携協定校における模擬授業
  - 教員免許更新講習
- ②地域と大学との各種連携事業を実施しています。
  - 深谷市との包括協定に基づく連携事業に取り組むとともに、地元の中学校・高校からの委員委嘱、講師派遣の依頼が多数あり、すべて承諾し協力しています。
  - 臨床心理センターは、地元コミュニティからの要望が高いカウンセリングと臨床心理セミナーを実施し、地元で悩みを抱える人たちにとって心強い施設になっています。
  - 本学学生と深谷市商工会が協働して実施する「OKABE光の回廊プロジェクト」は、岡部駅に隣接する希望が岡公園をイルミネーションで彩り、地域社会を明るくしています。
- ③産・学・官による組織的で有効な取組みに参加し、地域産業の活性化を目指します。
  - 2016年にものづくり研究センターを新築し、自然エネルギーの新しい蓄電技術の開発、2019年4月から自動運転技術開発センターを学長直轄組織として設立し、私立大学初の自動運転車を全国各地で走行させていますが、これらの実績がマスコミにも多数取り上げられるようになっております。なお、本学における自動運転では、2019年から埼玉県や日本財団からの助成金を得たプロジェクトを継続的に実施しており、全国的にも珍しい地元自治体と連携した公道走行実験を行っています。2021年度以降も自動化レベルをより高度化した運転システムの開発に取り組んでまいります。

## ■ 研究活性化戦略

本学は、人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野で、特色ある質の高い研究を促進させ、多様な教育研究基盤を確保するとともに、競争的資金等により教育研究活動の革新や高度化・拠点化を推進します。また、大学の研究ブランドとして「環境に優しい自然エネルギー開発の埼玉大」を掲げます。更に、地域・産学連携、および国際交流を促進し、より高いレベルで社会に役立つ研究成果の創出を目指します。

### 【目標を達成するための取組み】

本学は、2016年度にもものづくり研究センター、2019年に自動運転技術開発センター、及びAI研究センターを設立しました。

時代に即した研究センターを設立して研究開発を行っています。ものづくり研究センターでは、レドックス電池などの環境・エネルギー技術開発を目的に、自動運転技術開発センターでは、私学初の自動運転技術の全学的な研究組織として設立されました。AI研究センターでは、AI技術の様々な分野へ展開をめざしています。以上の活動により、本学が知的技術を創出できる研究機関であることを世の中にアピールすることを目論んでいます。

- ①全学共同プロジェクトを立ち上げ推進します。
  - ・これまで学内の多様な人材の連携による共同研究に対して研究費の助成を行ってきました。今後、学長主導のもと社会の大きな課題解決に取り組むためのテーマを設定し、全学的なプロジェクトを立ち上げ推進すると共に、研究費支援を行う予定です。
- ②科学研究費補助金等の競争的資金の獲得件数向上を目指します。
  - ・科学研究費助成事業への応募件数を増加させるとともに、採択率の向上を図り、競争的資金の安定的かつ継続的な獲得を目指します。また、JSTやNEDO、埼玉県のプロジェクトへの応募、獲得件数向上のため、学内共同研究や産学連携を推進します。
- ③先端科学研究所を拠点とする産学官交流や国際交流を推進します。
  - ・産学官交流センターは、学内の研究シーズを収集・公表するとともに、産業界や社会のニーズとのマッチングを図り、企業等からの受託研究、共同研究、技術移転等の契約件数増加を目指します。
  - 国際交流研究センターは、国際交流の一環として、JSTのさくらサイエンスプログラムを2017~2019年の3カ年度採択実施しました。また、本学は6カ国から80名を超える留学生を受け入れています。今後、更に幅広い国々から留学生を受け入れる取り組みを行います。
- ④国際シンポジウム・学会等の主催・後援を奨励するとともに、学内共同研究等を通じて学際的かつ独創的な研究を推進します。
  - ・「若手研究フォーラム」は、若手教員・研究者への研究支援や地域とのコミュニケーションの促進などを狙いとして毎年開催され、全学的な行事として定着しています。
  - ・科学と宗教に関する学際的な研究を目的とする「科学と仏教思想研究センター」は、大学内外の研究者・宗教者が参集して年6回の継続的な議論を行っています。
  - ・2019年度は、AI研究センター設立に伴い、外部から著名な研究者も招待して関連分野のシンポジウムを開催しました。
  - ・先端科学研究所を中心に大学、国研、企業連携の場として設立したセンサ & IoTコンソーシアムに参加し、他大学、企業と連携して講演会実施などの活動を行っています。

## ■ 管理運営体制の強化戦略

社会や学生のニーズに適切に対応しながら、継続的に発展していく組織を目指し、コンプライアンスの徹底、国益に即した先端技術流出の防止、スタッフ・ディベロップメント(SD)による人材育成、大学評価(認証評価)への対応、後援会・同窓会との連携強化に努めます。

### 【目標を達成するための取組み】

#### ①コンプライアンス強化の取組み。

「研究活動における不正行為」や「研究費の不正使用」の防止に関しては、大学等の研究機関が責任を持って適切に対応することが求められています。

本学の「コンプライアンス推進委員会」は、研究活動の公正性の確保並びに公的研究費の適正な使用及び研究者等の倫理に関する事項を審議するとともに、研究者等の不正行為に関する苦情等の窓口になります。関連して、以下の取組みも実施します。

- 研究活動における不正行為防止に対する研究者倫理の意識啓発
- 公的資金が含まれた研究費の不正使用防止に関する啓発活動

#### ②スタッフ・ディベロップメント(SD)を推進します。

• 大学が、複雑多岐にわたる課題を自律的に解決し、社会的な存在として発展していくために、スタッフ・ディベロップメント(SD)を推進して企画能力、専門能力、課題発見・解決能力を高め、職員の高質向上を図ります。

• 大学の事務組織は、学長、学部長等を補佐し、大学の管理運営、教育研究活動の支援、学生支援その他の業務を行うことを目的としています。業務の内容・水準は大きく変わりつつあり、スタッフ・ディベロップメント(SD)を通じて適切な対応を図ります。

#### ③大学評価(認証評価)への事前準備に取り組みます。

• 2012年度に受けた認証評価の認定期間は2019年度末をもって終了しました。

2019(令和元)年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審しました。この申請は認証期間の終了に基づく3回目の申請となりますが、現行の評価基準に基づき書類審査、実地審査等を経て、このたび、大学基準に適合しているとの認定を受けました。なお、認定期間は令和2年4月1日から令和9年3月31日までの7年間となっております。

この評価に基づき、令和2年度新たなスタートを切るわけですが、今回の評価結果の中で、「改善課題」、「是正勧告」の指摘がありました。それを真摯に受け止め、今後、実効ある自己点検作業を継続的に実施し、改善に取り組んで参ります。

#### ④後援会との連携を強化します。

• 保護者団体である後援会は、保護者懇談会等を開催して大学からの情報を保護者への確に提供することや、在学生の福利厚生を充実させる様々な助成を行っています。

また、長野市の「智香寺念佛道場」で開催される宗教研修会に毎年参加し、建学の精神に触れると共に、学生・教職員との親睦を深めています。

• 大学の教育研究活動の活性化を図るため、今後も後援会との連携を強化して行きます。

#### ⑤同窓会(卒業生)との連携を強化します。

• 同窓会と大学との連携を強化し、卒業生の現状把握に努め、大学から卒業生に対する情報提供やホームカミングデイ開催への支援充実を図ります。

埼玉工業大学は

「自分を変えたいと思っている埼玉大生」に、

「自分の物語が作れる4年間」を提供します。

「地域」を拠点に、「世界」に刺激を与え続ける

「社会活性化装置」としての

大学を目指すことが私たちのビジョンです。

そうなるために、「一生懸命」に!そして「積極的」に!

私たちは「社会と連携する力No.1の大学」になります。

このメッセージは、2021年ビジョンをひと言で表したものです。

埼玉大は、自分を変えたいと思っている埼玉大生の、最高の物語づくりを全面的にサポートしてまいります。

本ビジョンは2027年までに実現したい我々の目標です。今後、学生諸君、教職員共々協力してビジョンの実現を進めます。



## 自分が変わる物語が始まる

5本のライン・カラーはそれぞれ、青のラインは埼玉大が所在する岡部・深谷すなわち「地域」を、赤のラインは「世界」を、緑のラインは「環境」を表し、ピンクのラインは「人間社会学部」、オレンジのラインは「工学部」での活動を示しています。

埼玉大を中心に、社会に開かれ、繋がり、世界に広がっていく様々な物語であり、スローガン「自分が変わる物語が始まる」を視覚的に表現したイラストです。

## ■ 高校部門 正智深谷高等学校

### ■ 中長期ビジョン策定の背景

本校では、平成28年度(2016年度)入学生より「正智深谷高校イノベーション計画(SHIP)」を旗印として掲げ、教育活動を続けてきました。SHIPを掲げた当初、大学入試センター試験に代わる新テストの導入をはじめとする2020年度からの大学入試改革への対応を最大の課題としてきました。実施前年になり、文部科学省の方針が大幅に見直され、「英語外部試験の採用」ならびに「数学・国語の記述試験導入」については見送られることとなりましたが、大学入試自体が「思考力」や「表現力」を重視する方向に舵を切り、従来の知識重視型からの転換を図りつつあることは明らかになっています。こうした変化に対応すべく、3年間をかけてここまで段階的に移行を進めてきました。令和2年度(2020年度)入学生をもって、全学年が新しい系統・コースに統一され、学校全体で新しい教育活動に取り組んでいます。従来の教育活動に加えて、タブレット端末(iPad)の導入、土曜講座の設定、探求型修学旅行を軸としたG-CATプログラムの採用など、求められる学力の変化に合わせた新たな教育への取組みを進めています。

高校現場では、新たに改定された新学習指導要領の運用が、令和4年(2022年)から段階的に始まります。同年、本校は創立70周年という節目の年を迎えます。これを契機に新たに中長期ビジョンを策定し、今後の教育活動を更に一歩進めるための指針としていきたいと考えています。

少子化による15才人口の減少は今後も続き、埼玉県内の中学卒業生数の大きな増加は見込めません。深谷市を含む県北地区においては、もともと人口が少ないことに加え、高校への進学については公立志向が高い地域です。私立高校にとっては、今後も厳しい時代が続くことが予想されています。その反面、コロナ禍の中で、オンライン授業への早期対応によって教育活動を継続できたことへの評価は高く、そのことによる私立高校への信頼感の高まりも実感しています。唯一絶対と言える正解の無い不確実な現代社会においては、時代を先読みし、早期に対応していく姿勢は不可欠です。また、建学の精神に基づいたゆるぎない教育理念が学校経営の柱となり、近隣他校との差別化を図ることによって、継続的な募集定員の充足へとつながっていきます。今この厳しい時代を乗り切っていくためには、明確な指針に基づいた教育活動と、全ての教職員が利他精神を持って教育にあたる姿勢が必要だと考えています。

### ■ 今後5年間の15才人口の推移見込み

入学年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
埼玉県全域	64,459	63,492	62,486	61,039	62,528	63,320
本校通学圏	14,000	13,710	13,296	13,426	13,312	13,010

(2018埼玉県人口統計より)

### ■ 過去15年間の入学者数の推移 ※募集定員360名

入学年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
入学生徒数	387	362	398	348	326	456	477	443	330	401

## ■教育の理念

本校の教育理念は、仏教を開かれた釈尊（お釈迦様）が悟られた智恵と慈悲の精神を基点とし、特に浄土宗の開祖法然上人の人となりを理想としています。法然上人は、他の人を大らかに包容して、慈悲の権化ともいべき生涯を過ごされ、優しく勇気があり、強い人間としての生涯を送られました。本校の教育はこの御教えの上に立脚し、情操豊かな智・徳・体を備えた青少年の育成と、平和な社会を担う人材の育成を使命としています。

## ■建学の精神

優しく勇気があり、強い人間として生き、全ての人間が救われる道を説いた法然上人の教えの上に立つ。

## ■教育目標

仏教精神に基づき、真理を追求し、和を尊び、平和を重んずる規律正しい人間、智恵を求める人間を育成することを目指す。

## ■校訓

選択（不要なものを捨てて、正しいものを選び取る）  
専修（ただひたすらに打ち込むこと）

## ■育てたい人間像

- ①自己肯定感を育み、他者を認めることができる人
- ②問題解決に協働して取組み、他者に貢献できる人
- ③自ら主体的に考え、判断し、行動できる人

## ■教員の行動指針

- ①圧倒的な当事者意識
  - ・他の取り組みを批判的な視点で捉えず、自らの参考とするべく当事者意識を持って行動する。
  - ・教育関連の話題やニュースについて、感度を高く持ち、自身の教育活動に活かす意識を常に持つ。
- ②不易流行
  - ・本校のよき伝統や教育内容については踏襲すると共に、時代の変化に応じて、新しい教育内容や実践に積極的に取り組む。
  - ・周辺地域からよい評価を得ている本校のしつけ教育（挨拶・身だしなみ・言葉遣い・規範意識など）を継続し、社会の常識である「当たり前のことを当たり前」に実行できる生徒を育てる。
  - ・自身の偏見や先入観を捨て、社会の変化に対応した教育内容を広く取り入れる意識を忘れない。
- ③凡事徹底
  - ・学習環境の整備を常に心掛け、整然とした状態で学習に向かう環境と雰囲気作りを徹底する。
  - ・日常の授業を大切に、落ち着いた環境の中で授業を行なうことを教員、生徒共に意識する。
  - ・挨拶や身だしなみ、日常の清掃活動などを疎かにせず、自ら率先して規範意識を身につける。

## ■目指すビジョン

新学習指導要領では、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実」を目標として掲げ、学力の3要素を育成することが求められています。

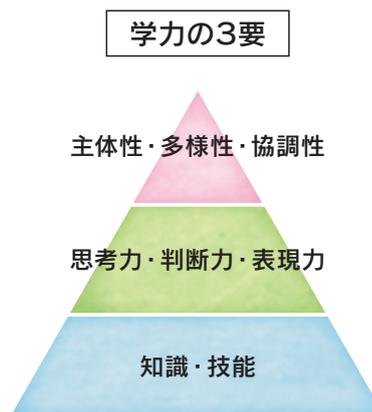
### ①知識・技能の確実な習得

### ②思考力・判断力・表現力

### ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

そのためには日常の授業を通して知識や技能を身につけるに加えて、プラスアルファの新たな取り組みが求められてきます。

また、グローバル社会においては、コミュニケーション能力が必須となり、異文化への理解や多様性を認める姿勢も求められています。変化の激しい現代社会においては、経験したことのない問題に直面することも多く、そうした困難にチャレンジ精神を持って立ち向かい、他者と協力して、主体的に問題解決を図ることができる人材が求められています。こうした人材を育成するために、従来の教育手法を踏襲しつつ、社会から求められる生きる力に対応するために新しい教育に積極的に取り組んでいきます。



## ■教育改革の推進

### ①ICT教育の活性化

- iPadの全校採用から3年を経て、授業等での活用については定着してきているので、さらに有効活用するために、活用事例やアプリの研究、操作法のスキルアップを図っていきます。

### ②アクティブラーニングの進化

- 文科省が掲げる「主体的・対話的で深い学び」を実践するために、様々な手法に取り組んでいきます。教科ごとに異なる運用を許容しながら、双方向型の授業の実践に努めていきます。

### ③G-CATプログラムの充実

- 本校独自の3カ年完結型のキャリア教育・グローバル教育プログラムをさらに深めていきます。
- 選択制による探求型修学旅行を中心に、「総合的な探求の時間」と連動させ、現代社会で必要とされる様々な能力を身につけることを目的とします。

### ④ハイブリッド型授業への取り組み

- ウィズコロナ時代を見越して、対面式授業＋オンライン授業のハイブリッド型授業を計画的に活用していきます。
- オンライン授業で知識・技術の習得を図り、対面式授業でコミュニケーションを重視した授業を行い、双方の教育手法のよい点を活かし、安心かつ効果的な授業の実践を図っていきます。

## ■施設設備の充実

### ICT機器の整備と充実

- 各教室へのプロジェクターおよびスクリーンの配備を進めます。
- Appleペンシルなど、新たなデバイスの活用を図り、より進んだICT教育を目指します。

## ■進路指導の充実

- ここ数年、現役での大学進学率は75%前後で推移しています。そのうち80%を超える生徒が学校推薦型選抜(推薦入試)、または総合型選抜(AO入試)で進学しています。すなわち一般入試での大学進学者は15%にも満たないというのが現状です。これは、指定校推薦枠が多いためにあえて一般入試に挑戦しないことに起因しています。指定校推薦枠の多さが本校の魅力になっている部分は認めつつも、国公立大学を含め難関大学へ一般入試で受験する生徒を増やしていくことは、学校の教育力を高めることにつながり、その結果としての進学実績が学校の評価となっていきます。そのためには、カリキュラムや授業はもちろん、教員の意識を根本から変えていく必要があります。指定校推薦ありきの大学進学から、一般入試に挑戦する学力と気概を持った生徒の育成が必要です。そのためには系統とコースの見直しを含め、本校の進路指導の方向性を明確にすることが必要となります。現在の大学入試の傾向と今後の展開を予測する中で、教育課程の改定(2022年)に合わせて系統とコースの見直しを図っていきます。
- 各種の活動実績が評価される総合型選抜入試に対して、生徒の適性に合わせた指導を戦略的に行い、難関大学へ挑戦する生徒数を増やす取り組みを進めていきます。
- 埼玉工業大学の内部進学希望者増とともに、学力向上の取り組みを進めていきます。
- 女子生徒を中心に、増加傾向にある看護医療系大学希望者への指導をさらに充実させていきます。

## ■課外活動の推進

### ①クラブ活動

- 現在、男女合わせて9クラブある強化指定クラブ(トップアスリートクラブ=TAC)の在り方について、2022年～2024年の3年間をかけて見直しを図っていきます。全国大会出場を目標に掲げ日夜活動を行っているTACですが、学校経営面での負担は小さくありません。今後、対費用効果について精査し、奨学金をはじめとする予算の見直しと支援の内容について検討していきます。TACの活躍は学校の知名度を高め、生徒の愛校心を醸成するだけでなく、生徒募集面においても大きな影響を与えています。今後は広報活動の枠組みの中で予算を配分し、適正な支援を行っていきます。

### ②地域連携

- G-CATプログラムの一環として1年次に実施する「深谷アンバサダープロジェクト」を通じて、深谷市内の企業、団体、学校、施設等との交流を積極的に図っていきます。
- セタや中仙道まつり、ねぎ祭りなどの地域イベントに積極的に参加し、交流を図っていきます。
- ベーカリー、カフェスペースなどの学校施設を地域開放し、認知度向上の取り組みを進めます。

## ■生徒募集

### ①生徒募集活動

- 募集定員を安定的に満たすために、単願300名以上、併願受験者1,100名以上の受験者数を目標数値として募集活動を行なっていきます。

### ②広報活動

- 紙媒体中心の生徒募集活動から、ウェブを戦略的に活用した広報活動への移行を進めます。
- SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みを拡大し、その活動を広報することを通じて目標の達成に寄与していきます。

## ■ 学園キャンパス整備・財政基盤強化(学園)

これまで学内キャンパス整備については他大学に比べて取り組みが遅れていたきらいがありますが、ここ数年の入学者増にともなって財務状況が大幅に改善されたことにより学生の教育研究環境の更新を企画立案、実行していける明るい兆しが見えてきました。大学のキャンパスの整備についてはすでに2021年2月に着工した機械工学総合実験実習棟を2022年夏に完成させることによりありますが、合わせてその後も2025年ころまでには前身の聖橋工業高等専門学校時代に建てられ、現在では老朽化した建屋や施設の建て替えなど安全で居住性を良くするキャンパス整備を順次実施していく予定であります。

財政基盤強化については、入学者数の安定確保に向けた施策が最も重要であると考えられますが、それ以外にも、社会人向けの遠隔による公開講座の実施などによる教育面及びベンチャー企業の設立などの研究開発面において、学生の授業料収入以外の収益を計る試みを重視して運営していく予定であります。

下記の資金収支計画(令和3年～令和9年)のとおり、財務状況の改善を図っていきます。

### ■ 資金収支予算計画(令和3年～令和9年)

(収入の部)

(単位 千円)

科目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
学生生徒等納付金収入		3,539,738	3,522,908	3,356,628	3,299,478	3,290,068	3,285,888	3,280,788
手数料収入		73,475	73,475	73,475	73,475	73,475	73,475	73,475
寄付金収入		24,000	23,000	23,000	23,000	23,000	23,000	23,000
補助金収入		1,091,457	901,438	749,595	727,600	727,600	727,600	727,600
資産売却収入		0	0	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入		37,750	37,450	37,450	37,450	37,450	37,450	37,450
受取利息・配当金収入		1,220	1,220	1,220	1,220	1,220	1,220	1,220
雑収入		100,748	119,790	125,199	148,972	148,972	148,972	148,972
借入金等収入		600,000	0	0	0	0	0	0
前受金収入		655,560	406,000	406,000	406,000	406,000	406,000	406,000
その他の収入		271,922	290,468	109,510	100,919	124,692	124,692	124,692
資金収入調整勘定		△746,028	△765,070	△506,919	△530,692	△530,692	△530,692	△530,692
前年度繰越支払資金		2,198,181	1,977,581	1,814,875	1,930,874	2,058,179	2,207,059	2,435,510
収入の部合計		7,847,723	6,588,260	6,190,033	6,218,296	6,359,964	6,504,664	6,728,015

(支出の部)

(単位 千円)

科目	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
人件費支出		2,386,318	2,497,629	2,442,150	2,367,747	2,388,670	2,307,028	2,345,399
教育研究経費支出		1,396,837	1,040,987	1,040,987	1,040,987	1,040,987	1,040,987	1,040,987
管理経費支出		381,523	354,253	354,253	354,253	354,253	354,253	354,253
借入金等利息支出		4,796	3,899	3,056	2,251	3,099	966	2,070
借入金等返済支出		58,396	148,396	140,626	133,246	133,246	133,270	113,650
施設関係支出		1,059,450	477,000	67,000	67,000	67,000	67,000	67,000
設備関係支出		257,450	169,800	158,800	158,800	158,800	158,800	158,800
資産運用支出		204,695	205,865	5,850	5,850	5,850	5,850	5,850
その他の支出		359,715	240,038	365,482	320,046	291,063	291,063	291,063
資金支出調整勘定		△239,038	△364,482	△319,046	△290,063	△290,063	△290,063	△290,063
翌年度繰越支払資金		1,977,581	1,814,875	1,930,874	2,058,179	2,207,059	2,435,510	2,639,006
支出の部合計		7,847,723	6,588,260	6,190,033	6,218,296	6,359,964	6,504,664	6,728,015
資金収支		△220,600	△162,706	115,999	127,305	148,880	228,451	203,496



**学校法人智香寺学園 埼玉工業大学** 〒369-0293 埼玉県深谷市普濟寺1690  
理事長 松川 聖業 学長 内山 俊一 TEL.048-585-2521(代表) FAX.048-585-2523(代表)